

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホームふるさと 憩いユニット	評価実施年月日	平成21年10月30日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	平成21年11月13日

北海道

は外部評価項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p> <p>運営理念の他にユニットケア理念を作り玄関入口に掲げ、地域の中で暮らすことを常に意識している。</p>		
2	<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p> <p>会議や連絡帳などで折りに触れ喚起し、スタッフは理念を常に意識し実績に取り組んでいる</p>		
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。</p> <p>理念を入口に掲示し、運営推進会議や憩い便りにも掲載し理解して頂ける様取り組んでいる</p>		
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p> <p>近所の方が友人宅を訪ねる様にホームに来られる方はいないが、散歩をしていると気軽に声を掛けてくださる方が増えている。色々なボランティアの方が声を掛けて下さり、利用者の方と関わって下さっている。</p>	○	近所の方がもっと気軽に立ち寄っていただけるようにしたい
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p> <p>町内会のお祭りや盆踊り、デイサービスのお祭りに参加。社長・専務は町内会の役員を引き受け、管理者はともに行事の手伝いをしている。 傾聴ボランティア(2/月)・オカリナと合唱(3~4/年)・メイクボランティア(1/月)の訪問 ニチイ学館・北ゼミの実習生の受け入れなど、地域の交流に努めている。</p>		
6	<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p> <p>困って訪問される方には、どこで相談したらよいかなどアドバイスしている。 また、運営推進会議では町内の独居老人の災害時の支援をどうするか今問題だと話題になっていたことがあるが、ホームとして何が出来るのか話し合っていない。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>内部評価と外部評価は何故必要なのか、プリントにして理解を求め取り組んでいる。また、外部評価で指摘評価された部分は早急に改善するよう取り組んでる。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>運営推進会議にてホームのことを知っていただける様、町内会の方や民生委員・地域包括センターの方々に出席していただいて情報を発信している。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>認定調査員の訪問時や更新時に相談したり助言をいただいたり、また、苫小牧Gホーム連絡会などで最新の情報を得て取り組んでいる。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>研修等で参加して学んでいるが、当ホームに今まで該当者なし。</p>	○	職員全体で理解できる様勉強会を行い、対象者が入所された際スムーズに対応出来るように努めたい。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p> <p>内部研修を行っている。又、スタッフ同士で言葉遣いやふるまいなど注意合ったり、入浴時や着替えの際利用者の体に異変がないか注意を払っている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>入所時重要事項説明書で説明し、理解を得ている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の意見や不満・苦情はスタッフや管理者が充分受け止め、会議や申し送りや連絡帳などに記載し共有し改善している。また、ご家族に報告している。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	面会時日頃の状況を報告し、特別なことがあった時は電話や手紙などで報告。預り金の収支は毎月月末にまとめ領収書を添えて送付している。利用者やスタッフの異動は憩い便りで報告している。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族からの不満や苦情は真摯に受け止め、要望などはプランに掲げている。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	業務会議などで出された意見は、スタッフ間で共有し日々の業務に反映させている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者の状況に合わせ柔軟な対応、勤務の調整ができており、その時々に合わせてスタッフは協力を惜しまない。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	新スタッフが馴染むまで、利用者が不安を生じないようにスタッフ全員でカバーしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p> <p>スキルアップを図る為、出来るだけ研修に参加できるようにしている。今年度も全員が様々な研修に参加している。</p>		
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p> <p>市内Gホームの研修や勉強会・リハビリ学会主催の勉強会に参加し交流している。又、忘年会を4施設合同で開催し、希望者が参加し色々な情報を得て利用者サービス、自分自身の質を向上させるよう取り組みをしている。</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p> <p>取り組みされていない。</p>	○	新年会等の親睦会を行い、運営者と職員が気軽に話せる場を設けたい。
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p> <p>勤務状況に応じて研修会への参加を勧めている。また、資格手当を設けている。</p>	○	運営者が現場にもっと顔を出して職員個々の状況を把握し、やりがいや向上心を持ってもらえるよう研修も含めて検討していきたい。又、待遇面も介護職員処遇改善交付金を活用していきたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>入所の相談は家族や親族からが多く、家族の希望もあり入所前に馴染みの関係づくりは今までは出来ていない。(本人の希望は入所してからとなることが多い)</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>入所を決断されるまで何度でも相談にのり不安解消に努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	即入所不可能な時は、他のサービスの紹介やケアマネとの関わり方のアドバイスをしている		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	本人の安心のため、家族の協力を得ながら徐々に支援の幅を広げている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	本人の思いや意見を受け止めながら、人生の大先輩として尊敬し親の様に助言をいただきながら関係を深め、自分の質を高めている。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族の本人への思いの中から苦労や悲しみ、自己嫌悪を受け止めて本人に関わっている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	今までの家族の本人への関わり方をなるべく変えずに、本人を支援する様努力している		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人より家族主体になりがちである。家族の意向が先行して本人が望んでも不可能なことが多い。 電話の取次ぎをしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	難聴の方が居られるので、スタッフが仲介者となり会話を継いでいる。又、認知症がすすみ仲間に入れない人には、スタッフが寄り添うなどしている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	長期入院のため契約が切れても、時間を見つけてお見舞いやご家族に状態を尋ねたりしている。又、亡くなられた時は、必ず葬儀やご自宅を訪ねお参りしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の生活歴やこれまでの暮らし方などをアセスメントし、出来ること出来ないことを把握して、どう過ごしたいのか見極めながら業務会議などで情報の共有に努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	フェイスシートやご家族からの情報を、日誌や連絡帳に記載してスタッフ間で共有している		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	利用者個々に合った過ごし方・心身状態は、バイタルチェックや引継ぎ・看護師との連携で把握できている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	モニタリング後情報収集や課題分析などを担当スタッフに行ってもらい、家族の希望を聞いてから介護計画を作成。その後カンファレンスを行って家族に配布している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	モニタリング等で現状を把握して適切な介護計画の改善に取り組んでいる。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日日々の様子、ケアの実践、結果などを個別の記録に残し、その情報をスタッフ間で共有しながら以後の介護計画に活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	利用者や家族の状況に対応し、病院受診の際の同行や送迎・買い物への同行希望用品の買い物(衣類・紙おむつ・トロミ剤etc)など		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	手芸教室・傾聴ボランティア・メイクボランティア・オカリナ、他のボランティアを受け入れ、共に楽しむ時間を共有している。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	以前はデイサービスを利用されている方もいたが、現在はいない。訪問看護との契約はあり、希望に応じ利用できる。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	本人の権利擁護まで深いかかわりはないが、運営推進会議での協力あり。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援をしている。	定期受診、体調不良時の受診、往診など、利用者の健康状態に応じて支援している。又、かかりつけ医とは、5年間の関わりの中で医師をはじめ看護師や他職員ともコミュニケーションが取れている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	時々に応じて脳外科やメンタルケアなどで受診や相談をしている。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護師は常勤ではないが利用者の健康管理など気軽に相談でき、また、専門的な細やかな情報はとても役に立っている。訪問看護事業とも連携している。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	個人情報保護法の関係もあり、家族を通して情報交換や相談を行っている		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入所時の重要事項説明時に終末期に何を望むのかを確認し、また、重度化していく過程でかかりつけ医に相談し、それを家族に報告、連絡帳やアセスメントに記載しスタッフ間で共有している。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	夜勤帯スタッフが一人になることを考慮して、事業所として出来ることはどこまでかを見極め、かかりつけ医と連携を密にして変化に備えている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>自宅から当ホームへの入所の時は、環境の激変を防ぐ為馴染みの家具や使い慣れたものを持参していただいている。また、今まで入院以外等ホームから他への住替えになった例はない。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>プライバシーに関するマニュアルを作成し個人情報の取り扱いに注意し、その類のものを食卓や机に放置せず、スタッフ間の会話にも注意を払うようにしている。</p>		
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>理念から外れないよう一人ひとりの思いや要求を受け止めており、自分で決めたことは尊重している。</p>		
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>日々のそれぞれの状況や体調の変化などを考慮しながら、利用者一人ひとりのペースに合わせて安心して暮らせるよう支援している。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>散髪は業者に出張していただいている。利用者のニーズに対応し、それぞれに合ったサービスを提供している。メイクボランティアの訪問時は、要望に応じおしゃれを楽しんでいただいている。</p>		
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>何が好きなのか何が食べたいのか、その時々体調に合わせて偏食に対応し、食事が楽しく美味しく食べられる環境作りを心掛けている。衛生上の理由で食材の管理や調理はスタッフが行っている。片付けや洗い物は個々の能力や体調に合わせて見守りの中で行っていただいている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	酒やタバコを好む方はいないが、飲み物やおやつ等はそれぞれの好みや状況に応じて提供している。また、受診時やユニットの買出しの際など、好きなおやつを買うことができる様支援している。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	トイレ介助・誘導・ポーター利用の見守りや介助と、一人ひとりの力に合わせた排泄の支援を行っている。また、尿取りパットや紙パンツ、下着の交換の声掛けや実施に向けて、利用者の尊厳や誇りに傷を付けないよう努めている。全介助の利用者にも毎朝トイレで排泄する習慣を支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	利用者のほとんどが昼間入浴されているが夜間入浴の方も居り、一人ひとりの希望を聞いて体調を考慮しながら支援している。排泄がうまくいかず常に不快な状態で居られる方にはなるべく毎日入浴できる様声を掛けている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	体調や身体の疲れを考慮し、スタッフ側の都合で無理に起こしたりせず一人ひとりの利用者が眠りたい時に安心して休めるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	洗濯物たたみ・食事の下膳・テーブル拭き・ごみ出しなどの役割、計算や音読、利用者同士の会話の仲介、散歩やユニットの食材購入など一人ひとりの能力に合わせたサービスを提供している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	個々の力に合わせてお金を所持して頂いており、それぞれの状態を把握し受診時や買い物時に預り金から支払うなど、見守り対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天候や利用者の体調、スタッフの人員の確保など条件が整っている場合は、散歩や食材の買出しのお手伝い、昼食をホーム前(戸外)で摂るなどなるべく全員が戸外へ出る事ができる様支援していたが、このインフルエンザの流行など状況的に困難な今は外出を控えている。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	ホームでは観桜会・観楓会など家族同伴で温泉などへ行き一時を楽しんでいるが、本人が望む自宅や墓参などは遠方とか段差を理由に実現できていない。家族と外出したり外泊できる利用者は三名ほどである。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	家族や友人と電話のやり取りが出来るよう支援している。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族や知人がいつでも自由に来訪し、居室などでゆっくり過ごされている。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束を行わないケアを実践している。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜間(玄関)以外は鍵をかけていない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	センサーやコール時の対応に限らず、一人ひとりの状況を把握し今どうして欲しいのか・何が必要なのかを考え、安全とプライバシーの重視を基本としたケアを行っている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	危険な物品は基本的に持ち込まれていないが、薬品などは鍵のかかる場所に保管し、一人ひとりの状態に応じて対応している。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	転倒の危険のある利用者の動きに注意、誤嚥時の対応、服薬時は名前の確認・飲み込みの確認、ユニット外へ出たら黙ってついて行く、調理中台所から離れる時の消火など、あらゆるリスクを想定し会議などで喚起している。スタッフは安全の為の知識を学びそれを共有し実施に向けて取り組んでいる。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急時の対応法やどこまでが自分たちで行うか全スタッフが判断できる。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回の火災訓練を行っているが、入居者や地域住民の参加はない。どこまで協力を得られるか不明であるが、運営推進会議で発信していきたい。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	面会時や電話などで家族に情報を提供し、どのような状況・状態にあるか共有している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日バイタルチェックを行い、常に体調を把握している。異常が発見された時は、スタッフ間で共有し必要に応じて医療機関を受診したり往診をお願いしている。また、申し送りもしっかりしている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	体調や病状に応じて変化する薬は、アセスメントや連絡帳に詳細を記載し全スタッフ間で共有できる様にしている。また、誰がどんな薬を服用しているのかファイルにしており必要時見ることが出来る。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	排便表を作成し、利用者それぞれが車イスの自走や立位運動など少しでも体を動かすよう支援し、また、牛乳やヨーグルト、食物繊維の多い食材を提供するなど一人ひとりに合った方法で便秘をしない様取り組んでいる。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	声掛けが必要な方、介助が必要な方などそれぞれに応じた口腔内の清潔に努めている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	日々日誌に記載し一人ひとりの状況を把握し、状況に応じて支援している。水分補給を心掛けているが、体調不良や病状の悪化で飲み込めない利用者が多い。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	職員の意識を統一し、出勤時は手洗い・うがい・消毒を励行。マスク着用などで予防している。また、汚物処理用具一式をバケツに入れ用意している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	常に新鮮なものを提供できる様、一度に多量に買い込まないようにしている。食器は一度洗ってから食洗機にかけ熱消毒し、漂白剤を使用して調理器具の消毒をし衛生に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関前は余計なものを置かないよう努めている。ドアのガラスを透明にし中の様子が分かる様にしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	混乱を招くのであまり変えていないが、季節感を採り入れるなど飾り付けで工夫している。	○	車イス利用者が多いため、全体に狭さを感じる。トイレの中が狭く使い勝手が悪い。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	利用者一人ひとりが好きなところで過ごせる場所がある。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入所時使い慣れた家具を運んでいただいております、ご家族の写真などを置き思い出を大切に、安心して生活環境を作り上げている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	ハード面で空調はあまりよくないため臭いがこもりやすい。窓を開けることを利用者が好まない為、消臭剤、空気清浄機などで対応している。温度計・湿度計を常に確認し、利用者の状況に応じている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。	安全な生活ができる様手摺りやスロープなど設置されているが、個々によって出来ないこともあり時に応じて見守りや介助を行っている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	一人ひとりの生活パターンに合わせて自分で出来るようさり気なく声を掛け、混乱を防ぐことができる様努めている。		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	こもれびの道の活用で散歩中の人や動物とのふれあいがある。ホーム前で昼食やおやつをとり、木立の中を散策したり周辺を散歩したりしている。		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> ① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての家族 ② 家族の2/3くらい ③ 家族の1/3くらい ④ ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

運営理念・ケア理念に添った関わり・ケアを目指し、チームで関わっている